

サイレージ用とうもろこしの総合評価法

(畜試 草地部)

1. 背景とねらい

サイレージ用とうもろこし栽培において、輸入F1とうもろこしの占める割合は非常に高く、また、数多く流通している。県ではその中から奨励・推奨品種を選定しているが、その選定に際しての客観的、総合的な評価基準を作成したので参考に供する。

2. 技術の内容

1) 品種評価の基本的な考え方

- ①現在選定している奨励・推奨品種を基準として、供試品種の評価を行う。
- ②農業改良普及所など各指導機関で実施している展示圃等で利用できる内容とする。
- ③各品種は播種日からの単純積算気温により表-1の通り4段階に分類し各グループ毎に評価する。

表-1 品種の早晩性区分

区 分	呼 称 区 分	単純積算温度範囲
I	極 早 生	~2200℃
II	早 生	2201~2400℃
III	中 生	2401~2500℃
IV	晩 生	2501~ ℃

2) 評価基準に使用する項目

- ①収量性 ア：10a当たり乾物収量
 イ：1日当たり乾物生産速度
 ウ：10a当たりTDN収量
 エ：1日当たりTDN生産速度
- ②安全性 オ：耐倒伏性
 カ：耐病性

3) 評価の方法

- ①収量性については相対評価、安全性については絶対評価とする。
- ②評価は表-2の通り各項目の点数を積み上げて総合得点の評価を100点とし、80点以上をA、65点以上をB、50点以上をC、50点未満をDとする4段階評価とする。
- ③棄却法の導入：各小項目でDランクの出たものは総合でもDランクとする。

表-2 各項目の評価基準

項目		ランク	A	B	C	D	備考
収 量 性	10a 当たり 乾物収量		>101 15点	95~100 10点	85~94 5点	84> 0点	奨励、推奨品 種の成績の平 均値を100と した指数を、 極早生、早生 、中性、晩性 の4区分（表 -1）で比較 する。
	1日当たり乾 物生産速度		>101 15点	95~100 10点	85~94 5点	84> 0点	
	10a 当たり TDN収量		>101 15点	95~100 10点	85~94 5点	84> 0点	
	1日当たりT DN生産速度		>101 15点	95~100 10点	85~94 5点	84> 0点	
安 全 性	倒伏率		無 20点	微0~5% 15点	5~10% 10点	10%< 0点	対象病害 ごま葉枯れ病 黒穂病、紋枯 病、条萎縮病 急性萎凋病
	病気の程度 及び種類		無 20点	微0~5% 2種類 以下 10点	5~10% 3種類 以上 5点	10%< 0点	

Aランク：現在の奨励・推奨品種を上回る品種

Bランク：現在の奨励・推奨品種とほぼ同じ品種

Cランク：現在の奨励・推奨品種より劣る品種

Dランク：現在の奨励・推奨品種よりかなり劣る品種

3. 結果の取扱い等

- ①同一品種について3年間試験を実施し、そのうち2年Aランクを出した品種は奨励・推奨品種として選定審議会に諮る。
- ②各単年度結果のランク等を公表する。
- ③奨励・推奨品種については3年間Cランクのたものは廃止とする。
- ④当面この評価基準は試行とする。